

発達障害児・者のニーズを踏まえた 障害福祉サービス等の利用支援に関する調査報告

(その5) 現在のニーズ

国立障害者リハビリテーションセンター
発達障害情報・支援センター

環境

- 仮設住宅に入り9ヶ月たちますが、近くに遊び場がなく困っています。騒いで大変なので1kmくらい毎日散歩させてます。(4歳)
- 仮設住宅から次に住むところが心配。子どもが自閉症のためアパートも2階以上には住めません。(10歳)
- 仮設住宅で過ごして数日で苦情の電話があり、静かに過ごせるよう努力して遮音・防音の工事もしました。でもパニックを起こされるとどうしようもなく、車に乗せて走ってます。(7歳)

仕事

- 収入が減った。解雇されたので4月下旬から新しい就職先を見つけ、働き始めたが収入が震災前の半分から3分の1と安定していません。毎日どう生活し、何年この状況が続くのか不安です。(8歳)
- 求人の激減。(27歳, ご本人)
- 卒業を間近にひかえ不安定な時期が長く続いたため、現場実習が充分にできませんでした。4月からどうしたらいいのか。受け入れてくれるところはあるのか不安です。(18歳)

支援

- 今後、困難なことに直面するだろうけど、その時と、その時に困らないような対策を今から考えるためにも、常日ごろ相談(生活全般から就労に関する相談まで多岐に)できる人物が必要と感じています。(23歳, ご本人)

心身の状態

- いまだに突然泣いたりぐずったりが続いています。あんなにこわがってたのにたまたま震災のDVDをみたらおもしろがって「もっとみたい」とか見て笑ったりするようになりました。(5歳)
- 先日、地震・津波注意報発令となり、平気そうにしながらも、耳をふさぎウロウロしていました。今後もし起きるこのようなことに症状が再び悪化してしまうのか不安です。(7歳)
- 震災の影響なのか思春期の不調なのか判断がつかず、対応に困っています。(10歳)
- 精神的、肉体的疲労が今頃になって、親も子も出てきてるのでメンタル面のサポートも必要です。(5歳)
- 原発がまた壊れるのではないかと、地震が来たら・・・と漠然とした不安があり、震災前のように外出を楽しんだりする機会が減りました。(5歳)

現在のニーズ 3)

2012年2～3月現在

- そのほか、福島県の方より以下のようなご意見が寄せられました。

環境

- 体を動かす機会がなく、体力の低下が不安。室内の施設は人が多すぎるためうまく遊べません。(6歳)

支援

- 療育センターの診察の先生が次々と変わってしまうこと。(6歳)
- かかりつけの病院が警戒区域内にあり、通院できなくなった。慣れない病院、知らない医師では、診察室に入ろうとしないので周囲に迷惑をかけているようで心苦しい。医師、看護師不足のためかあわただしく、他の人より手間がかかる障害児は行きづらい感じがします。(9歳)

放射線被害

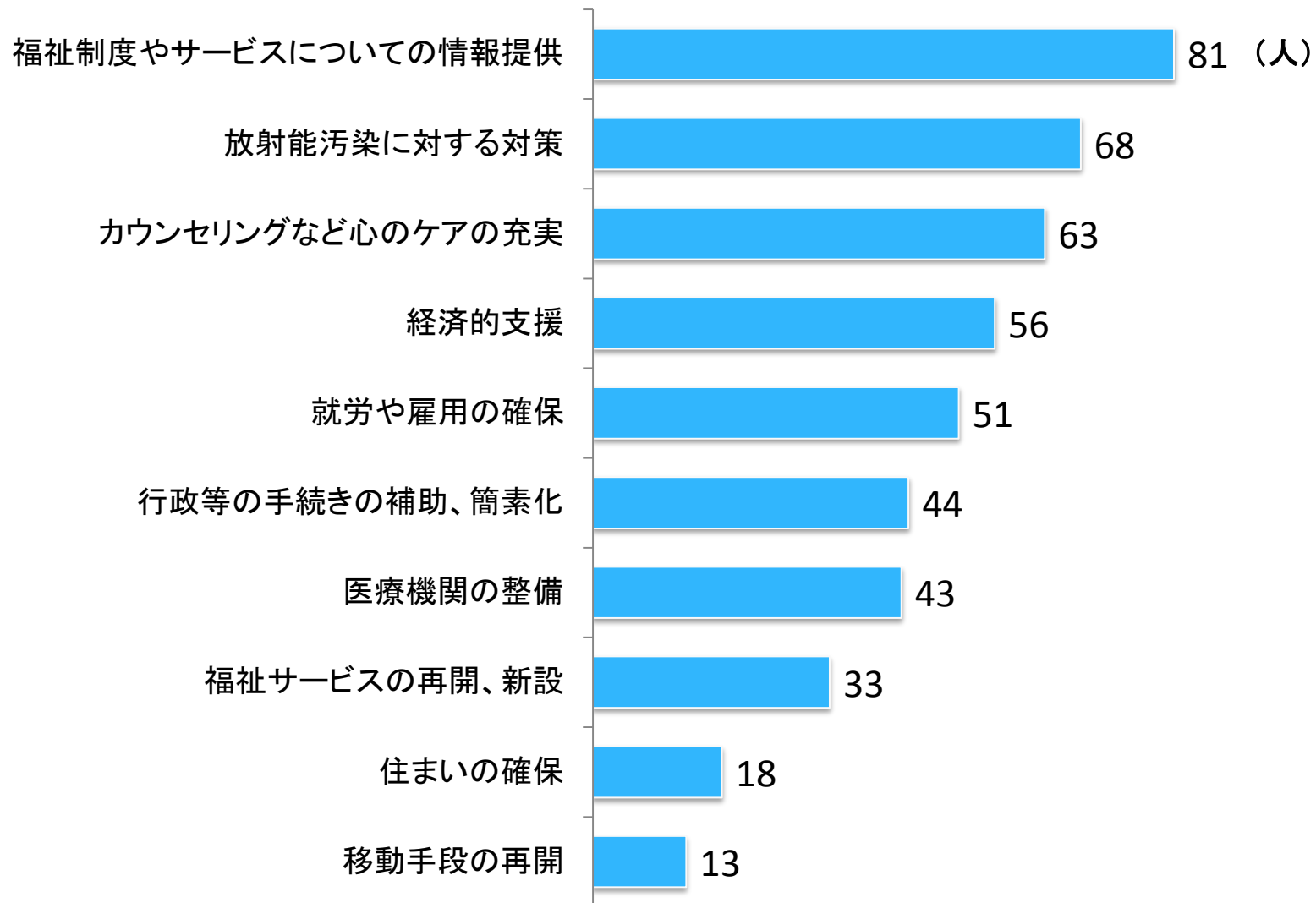
- 息子の二次障害を考えるともう被ばく覚悟で遊ばせています。二次障害が出るくらいなら命が短くなることも仕方ないと思っています。(10歳)

その他

- 知らない土地で幼稚園をさがし入ってみたら、理解がなくへとへとの時を過ごしました。幼稚園をやめるにあたっては、家族の理解を得るのにまたエネルギーを使いました。(5歳)
- 前に通っていた幼稚園が再開されないこと。(4歳)

現在必要な支援は何ですか 平成24年2月～3月現在

総数276人



選択式による。複数回答可

その他、ご意見やご要望について 1)

- 行政がしっかり復旧に取り組んでほしい
- 汚染に対する対策をしてほしい

同様のご意見が多数ありました

震災前後に関すること

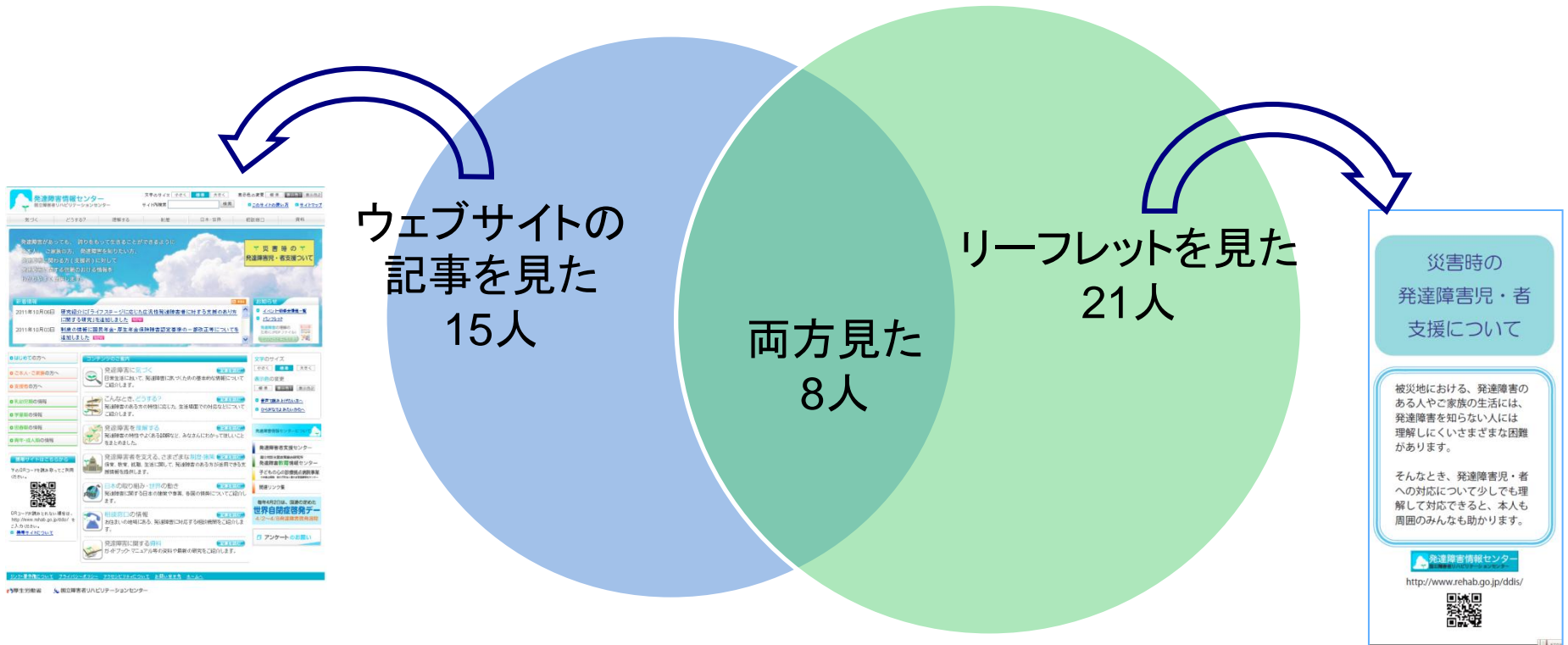
- 震災時は便利なインターネットも全く使えず、使えるようになっても交通がストップしているなかで役に立ちませんでした。(5歳)
- 震災直後、学校の寄宿舎で17日間過ごしました。避難所では周囲に迷惑をかけるし、本人もストレスを受けると思うので、障害児は避難所で他の人々と生活するのは難しいと思います (学童期・年齢未記入)
- 震災がちょうど年度末にあたり、学校の制度や規則、教師の変更等の問題がはっきりしないまま新学期が始まったので、24年度はどうなるのか不安なところが多少あります(10歳)
- 子どもが3人とも広汎性発達障害です。旅行しても公共の場所へ泊ることができず、キャンピングカーを利用しています。パニックになりやすい我が子たちですが、余震がきてもあまり気にすることなく過ごせました。(15歳)

その他、ご意見やご要望について 2)

将来のことやご提案など

- 地域格差があることに悩んでいましたが、震災によりさらに広がってしまったのではないかと不安です。(12歳)
- 避難所などでまだまだ発達障害について知られていないことを痛感しました。たくさんの人に発達障害を知っていただきたいと思います。そして、またこのような災害が起きたとき、その場の方が私たちと同じような思いをせずにはすむように願います。(10歳)
- 市町村ごとに障害児・者をかかえている家族に対しての防災マップの配布や訓練もあると、災害時にそれが経験になって本人も対処できたりするのではないかと思います。(10歳)
- 同じ県内でも放射能の影響は少なく、多くの避難者が来ました。そこで人と人の出会い、親睦が深まり、今でも付き合いがあります。助けたり、助け合ったり、この経験は大きな大きな収穫でした。障害者は、ほんの少しのサポートで、大きく変われます。(10歳)

「災害時の発達障害児・者支援について」のウェブサイトページとリーフレットについて



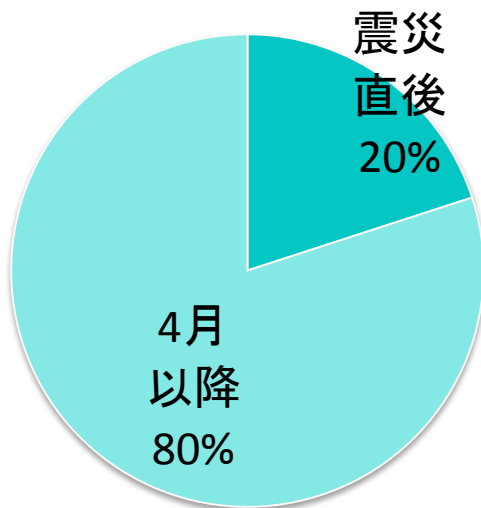
ウェブサイト、リーフレットのいずれかを見た人
計28人＝約1割 N=276人



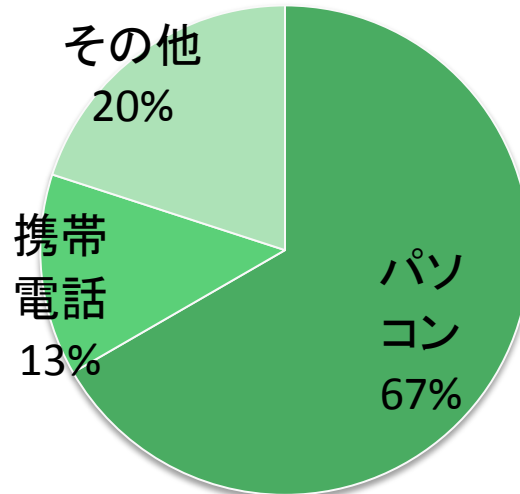
ウェブサイトページについて

N=15人

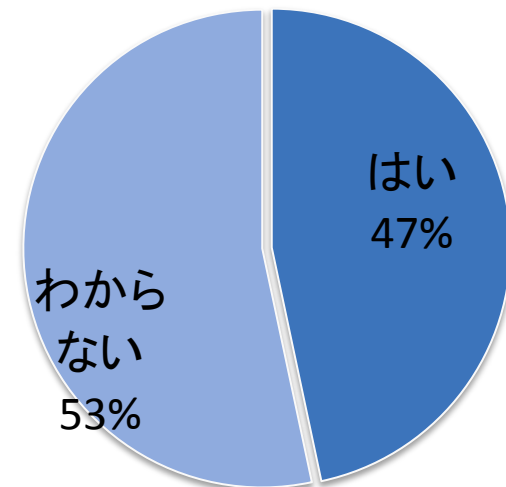
いつ見ましたか



何で見ましたか



役に立ちましたか



発達障害情報・支援センターへのご要望やご意見

災害時の情報提供について

- インターネットを使っていないので、インターネット以外での情報提供を増してほしい。ネットを使っていない、使えない人へも気を配ってほしいと思います。(8歳)
- パソコンがなく、チラシも目につきませんでした。今、携帯電話で確認してみました。今後役立てたい！(10歳)
- インターネットに掲載したことを知らせることが必要だったと思います。(5歳)
- 災害時の情報は、地方紙やラジオ、テレビ等でも見聞きできるようにしてほしいです。(22歳)

今後について

- 子どものことよりも、これからどう生きればいいのかがいっぱいいっぱいで、情報を得ようというところまでいかないのが本当のところです。(14歳)
- 障害について知識がないときは、どのように取り組めばよいのかわからず、すごく悩みましたし、本人も苦しかったと思います。もっと広く存在を知られてフォローしていただける流れがあれば、みなさんが悩まず進めるとと思います。(12歳)